2歳

3歳

※ 3 歳以降は母子健康手帳を活用してください

サポートマップ

困ったときに相談できる人・
機関（場所）などを記入しましょう。

（例）医療機関、相談できる施設、
近所の方 など

機関名：
担当者：
どんな時：
連絡先

機関名：
担当者：
どんな時：
連絡先

機関名：
担当者：
どんな時：
連絡先

（例）
機関名：〇〇病院
担当者：〇〇先生
どんな時：月 1 回のリハビリ
連絡先：

機関名：
担当者：
どんな時：
連絡先

機関名：
担当者：
どんな時：
連絡先

小児～大人への移行期医療支援について

“子ども”から“大人”へ自立していくお子さんが、適切な医療を生涯に渡り受けられるように、小児医療と成人医療を繋ぐ架け橋として、主治医や移行期医療支援センター（県立こども病院、信州大学病院）等が、お子さんやご家族と一緒に考え、お子さんの自立に向けた支援をする新しい医療の形です。

移行期医療支援には、２つの柱があります。

① 小児科医と成人科医が十分な協力体制を確立しながら、小児科から成人科への医療の移行を支援すること
最も適切な医療は何か、どこの病院でどの診療を担うかを、医師等が、お子さんやご家族と一緒に考えます。

② お子さんが病気と向き合い、病気に対する自己管理能力を高めていくための、お子さん自身の自立を支援すること

自立した大人に育てることが、育児の一つの目標だと思います。お子さんの持っている力に応じた、本人なりの自立でよいのです。

そのためには、子どもの頃から準備が必要です。自立への第一歩として自分自身を知るために、お子さんが物心つく頃から、生まれた時のこと、頑張って治療を受けたこと、なぜ病院を受診しているかなどを、お子さんがわかる言葉で少しずつ伝えていきましょう。

また、ご家族がお子さんのことを大切に思っていることも伝え、できるだけ褒める子育てをして、ありのままの自分でいいのだという自尊心を高めていきましょう。

ご本人からのメッセージ（在胎 22 週生まれ）

私が小さく生まれた事を知ったのは、小学２年生の授業で『自分のアルバム』を作った時です。その時は、「こんなに小さく生まれたのに、大きくなってすごい！！」と驚きました。今は、自由に生活できて、そんなことは関係ないなと思えています。

私は、みんなと何も変わりません。

【監修】
長野県立こども病院
副院長兼総合周産期母子医療センター長　　廣間　武彦
総合周産期母子医療センター新生児病棟看護師長　　深尾　有紀

【参考文献】
○低出生体重児保健指導マニュアル
○医療機関退院後の低出生体重児の身体発育曲線

【協力者】
○長野県立こども病院
○低出生体重児交流サークル「クレッシェンド」「ひめりんごの会」
○イラスト
表・裏表紙　おがわらあや
40 ページイラスト　先輩ママ

【作成・編集】
長野県健康福祉部　保健・疾病対策課　母子保健係
令和６年３月発行

アンケートのお願い

よりよいリトルベビーハンドブックにしていくため、アンケートを実施しています。ご協力をお願いします。　アンケートはこちらから▶